

国際産学連携溶接計算科学研究拠点第16回講演会の報告

国際連携溶接計算科学研究拠点リーダー：麻寧緒

2024年3月5日(火) 10:00~17:00 国際産学連携溶接計算科学研究拠点(CCWS)は、『船体・鋼橋・車体における溶接疲労安全性の向上技術と力学評価』というテーマで、第16回講演会を対面形式で開催しました。6名の講師が基調講演や招待講演を行い、68名の方がご参加くださいました。

午前中のセッションで、大阪大学・大沢直樹教授、法政大学・内田大介教授、岐阜大学・植松美彦教授が、それぞれ、「船舶海洋構造物の疲労強度評価技術の研究動向」、「鋼橋の疲労強度評価に関する最近の取り組み」、「鋼板強度レベルやナゲット径の異なる抵抗スポット溶接継手の疲労強度評価」について、基調講演を行いました。

午後のセッションでは、株式会社神戸製鋼所・加納覚様と三和ドック株式会社・松崎拓也様が、それぞれ、「疲労寿命を延伸する全姿勢溶接用LTT溶接材料の開発」と「LTT伸長ビード角回し溶接補修・補強法による疲労寿命の延伸」について講演しました。本講演会の最後には本研究拠点の麻寧緒教授が「研究ソフトJWRIANによる溶接疲労安全性とLTT伸長ビード補強補修法の力学評価」について研究成果を報告しました。

講演会中の活発な質疑討論や研究シーズの展示ポスター及び企業の展示物を見ながら議論する参加者の様子も見られ、産学連携のための情報交換や名刺交換の場を提供するCCWSの役割も果たす講演会となりました。

